

事前課題アンケート結果

ー現状分析と改善案作成のための基礎資料ー

仁上幸治（図書館サービス計画研究所 代表）

●事前課題アンケート: <http://goo.gl/forms/0nTxmjTCUa>

静岡県図書館大会 第一分科会「図書館サービス」

■講演「図書館の魅力を上手に伝える ―PR(パブリックリレーションズ)による味方づくり戦略入門―」

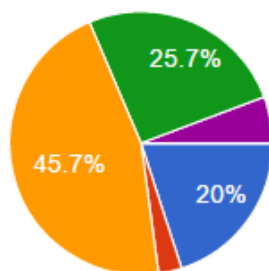
■講師:仁上幸治

今回の大会分科会の準備のため、下記の事前課題アンケートにご回答ください。

■締切:2015年10月31日(土)19時 137名中回答者35. 回答率26%

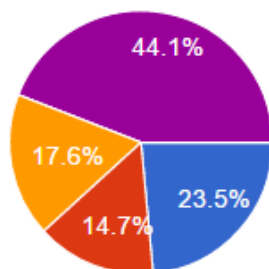
【0】回答者編 *Google フォームによる自動集計。円グラフでは第一選択肢は時計の3時の位置から開始。

0-4. あなた(回答者)のポジション



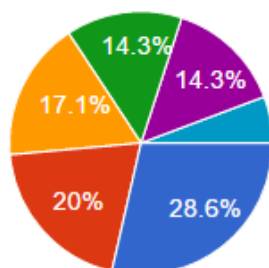
館長	7	20%
図書館管理職	1	2.9%
職員(専任)	16	45.7%
職員(非正規)	9	25.7%
委託スタッフ	2	5.7%
その他	0	0%

0-5. あなたの主な担当業務



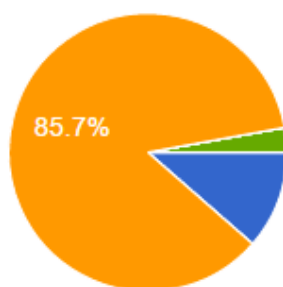
閲覧・利用支援	8	23.5%
図書・目録・整理	5	14.7%
雑誌	6	17.6%
レファレンス・利用者教育	0	0%
その他	15	44.1%

0-6. 図書館勤務経験(通算)



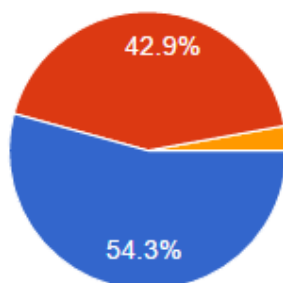
0~2年	10	28.6%
3~5年	7	20%
6~10年	6	17.1%
11~20年	5	14.3%
21年以上	5	14.3%
その他	2	5.7%

0-7. 館種



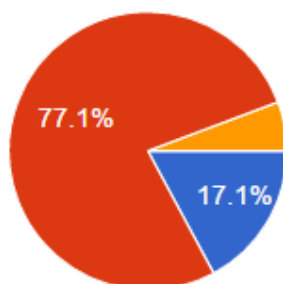
1)大学図書館	4	11.4%
2)短大図書館	0	0%
3)公共図書館	30	85.7%
4)学校図書館	0	0%
5)専門図書館	0	0%
6)教員	0	0%
7)書店員	0	0%
その他	1	2.9%

0-8. Yahoo!やGoogle等のアカウントを持っていて、日常的に活用していますか？



はい	19	54.3%
いいえ	15	42.9%
その他	1	2.9%

0-9. Twitterやfacebook等のアカウントを持っていて、日常的に活用していますか？

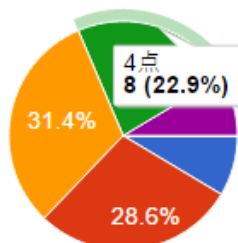


はい	6	17.1%
いいえ	27	77.1%
その他	2	5.7%

【1】現状

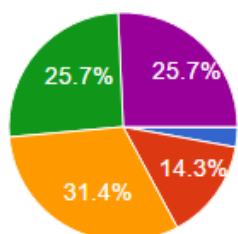
■ 立地

1-1. 図書館(室)は動線上、多くの人が通る最も便利な場所にある。



1点	3	8.6%
2点	10	28.6%
3点	11	31.4%
4点	8	22.9%
5点	3	8.6%
N/A	0	0%

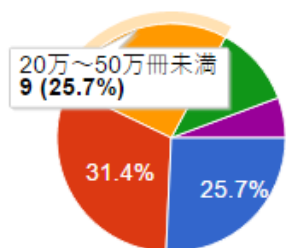
1-2. 図書館(室)の出入口は、わかりやすく入りやすい場所にある。



1点	1	2.9%
2点	5	14.3%
3点	11	31.4%
4点	9	25.7%
5点	9	25.7%
N/A	0	0%

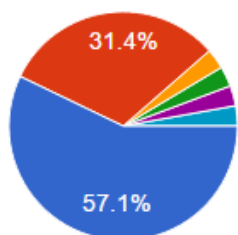
蔵書・利用度

1-3. 蔵書数(図書)



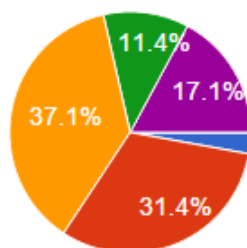
10万冊未満	9	25.7%
10万~20万冊未満	11	31.4%
20万~50万冊未満	9	25.7%
50万~100万冊未満	4	11.4%
100万冊以上	2	5.7%
N/A	0	0%

1-4. 雑誌タイトル数



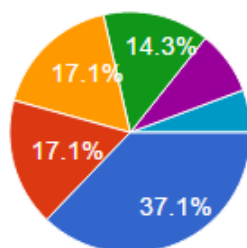
100誌未満	20	57.1%
100~500誌未満	11	31.4%
500~1000誌未満	1	2.9%
1000~3000誌未満	1	2.9%
3000誌以上	1	2.9%
N/A	1	2.9%

1-5. PC(備え付け/持ち込み)が自由に利用できる(設備、数量)。



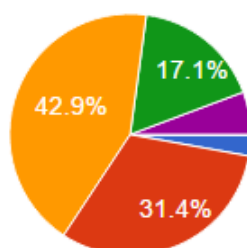
1点	1	2.9%
2点	11	31.4%
3点	13	37.1%
4点	4	11.4%
5点	6	17.1%
N/A	0	0%

1-6. 館内設置のコピー機が自由に利用できる。



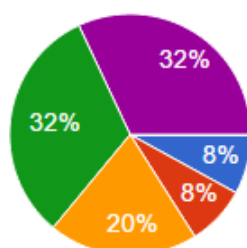
1点	13	37.1%
2点	6	17.1%
3点	6	17.1%
4点	5	14.3%
5点	3	8.6%
N/A	2	5.7%

1-7-1. 学生(高校生・大学生等)によく利用されている



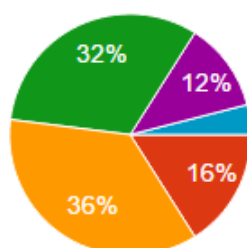
1点	1	2.9%
2点	11	31.4%
3点	15	42.9%
4点	6	17.1%
5点	2	5.7%
N/A	0	0%

1-7-2. 幼児・児童・生徒によく利用されている



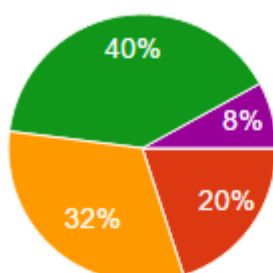
1点	2	8%
2点	2	8%
3点	5	20%
4点	8	32%
5点	8	32%
N/A	0	0%

1-7-3. 成人女性によく利用されている



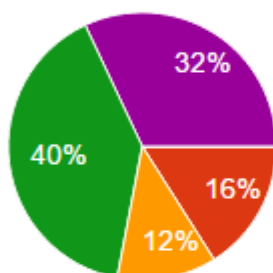
1点	0	0%
2点	4	16%
3点	9	36%
4点	8	32%
5点	3	12%
N/A	1	4%

1-7-4. 成人男性によく利用されている



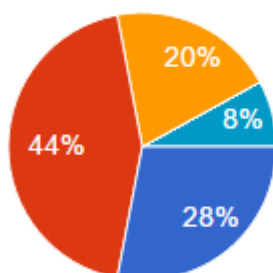
1点	0	0%
2点	5	20%
3点	8	32%
4点	10	40%
5点	2	8%
N/A	0	0%

1-7-5. 高齢者によく利用されている



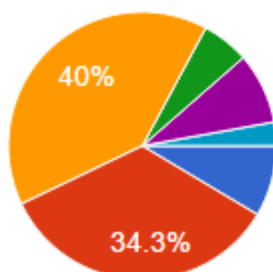
1点	0	0%
2点	4	16%
3点	3	12%
4点	10	40%
5点	8	32%
N/A	0	0%

1-7-6. ビジネス目的によく利用されている



1点	7	28%
2点	11	44%
3点	5	20%
4点	0	0%
5点	0	0%
N/A	2	8%

1-8. 親組織のスタッフ(教職員・役所職員・事務職員等)によく利用されている

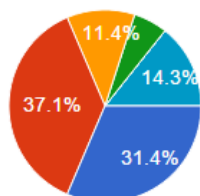


1点	3	8.6%
2点	12	34.3%
3点	14	40%
4点	2	5.7%
5点	3	8.6%
N/A	1	2.9%

【2】図書館ブランディング編

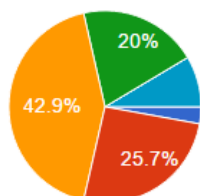
■ コミュニティ内認知度編

2-1. 図書館と図書館員の存在感を利用者に印象づけるための総合的な政策としてブランディング活動を積極的に進めている。



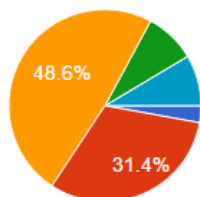
1点	11	31.4%
2点	13	37.1%
3点	4	11.4%
4点	2	5.7%
5点	0	0%
N/A	5	14.3%

2-2. 図書館は、学習・教育・研究を支援する重要な施設・部署として学内で実質的に期待されている



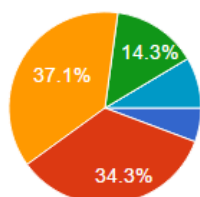
1点	1	2.9%
2点	9	25.7%
3点	15	42.9%
4点	7	20%
5点	0	0%
N/A	3	8.6%

2-3. 図書館は、図書館利用教育・情報リテラシー教育を担う重要な施設・部署として実質的に認識されている。



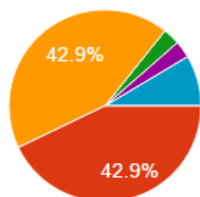
1点	1	2.9%
2点	11	31.4%
3点	17	48.6%
4点	3	8.6%
5点	0	0%
N/A	3	8.6%

2-4. 図書館員は、学習・教育・研究を支援する重要な職種として学内で実質的に期待されている



1点	2	5.7%
2点	12	34.3%
3点	13	37.1%
4点	5	14.3%
5点	0	0%
N/A	3	8.6%

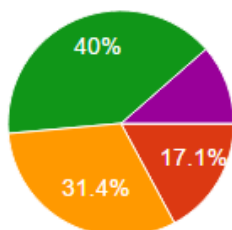
2-5. 司書職は、図書館経営とレファレンスサービス等の専門的サービスを担う重要な専門職としてコミュニティ内で実質的に期待されている



1点	0	0%
2点	15	42.9%
3点	15	42.9%
4点	1	2.9%
5点	1	2.9%
N/A	3	8.6%

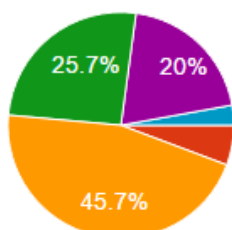
■ 応対・広報編

2-6. カウンターでの応対では親しみやすい人物、高い専門能力を積極的に印象づけるようにしている。



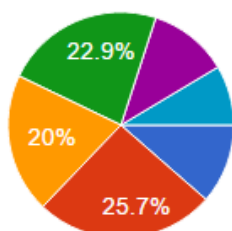
1点	0	0%
2点	6	17.1%
3点	11	31.4%
4点	14	40%
5点	4	11.4%
N/A	0	0%

2-7. リクエストの利用を積極的に勧めている。



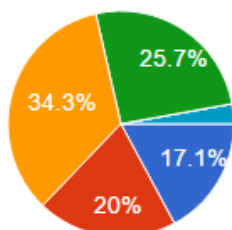
1点	0	0%
2点	2	5.7%
3点	16	45.7%
4点	9	25.7%
5点	7	20%
N/A	1	2.9%

2-8. 投書箱をコミュニケーションツールとして積極的に活用している。



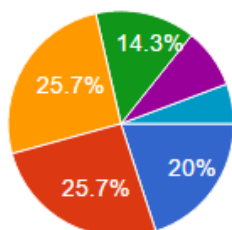
1点	4	11.4%
2点	9	25.7%
3点	7	20%
4点	8	22.9%
5点	4	11.4%
N/A	3	8.6%

2-9. 利用案内は、活字だけでなく、手書きのイラストを多用した親しみやすいビジュアルにしている。



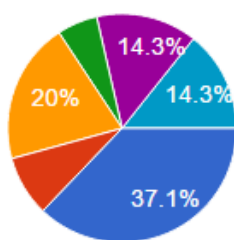
1点	6	17.1%
2点	7	20%
3点	12	34.3%
4点	9	25.7%
5点	0	0%
N/A	1	2.9%

2-10. 館報(ニュース)は、活字だけでなく、手書きのイラストを多用した親しみやすいビジュアルにしている。



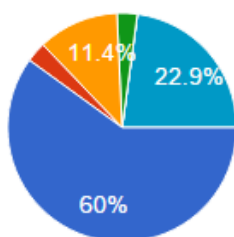
1点	7	20%
2点	9	25.7%
3点	9	25.7%
4点	5	14.3%
5点	3	8.6%
N/A	2	5.7%

2-11. 図書館独自のキャラクターを作成している。



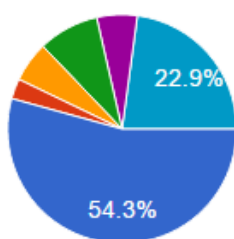
1点	13	37.1%
2点	3	8.6%
3点	7	20%
4点	2	5.7%
5点	5	14.3%
N/A	5	14.3%

2-12. 図書館独自のグッズを作成して、配付・販売、活用している。



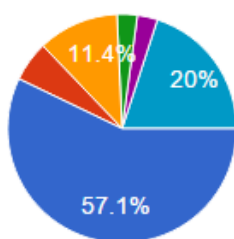
1点	21	60%
2点	1	2.9%
3点	4	11.4%
4点	1	2.9%
5点	0	0%
N/A	8	22.9%

2-13. 図書館独自のロゴマーク・シンボルマークを作成している。



1点	19	54.3%
2点	1	2.9%
3点	2	5.7%
4点	3	8.6%
5点	2	5.7%
N/A	8	22.9%

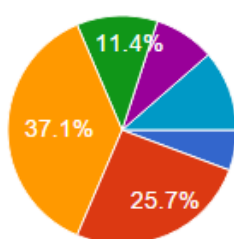
2-14. ロゴマークやシンボルマークを広報印刷物に刷り込んでいる。



1点	20	57.1%
2点	2	5.7%
3点	4	11.4%
4点	1	2.9%
5点	1	2.9%
N/A	7	20%

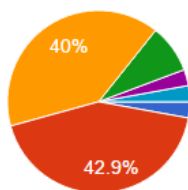
■ 設備・配置・サイン

2-15. 施設・設備は身体的精神的障害者など少数者への配慮が十分になされている。



1点	2	5.7%
2点	9	25.7%
3点	13	37.1%
4点	4	11.4%
5点	3	8.6%
N/A	4	11.4%

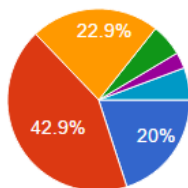
2-16. サインの基板(プレート)の大きさ、色、文字の書体、色、大きさなどが、周辺の環境内で目立つよう、判読しやすく、緻密にデザインされている。



1点	1	2.9%
2点	15	42.9%
3点	14	40%
4点	3	8.6%
5点	1	2.9%
N/A	1	2.9%

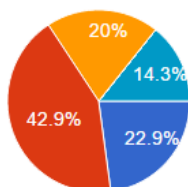
■ 配付物・掲示物・ホームページ

2-17. 統合的なデザインコンセプトが一目で伝わるように、各種媒体が総合的に企画・管理されている(カラーリング、書体、形など)。



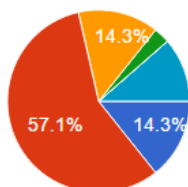
1点	7	20%
2点	15	42.9%
3点	8	22.9%
4点	2	5.7%
5点	1	2.9%
N/A	2	5.7%

2-18. 全アイテムについてビジュアルデザインに一貫したポリシーがあることがわかる。



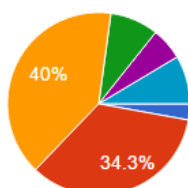
1点	8	22.9%
2点	15	42.9%
3点	7	20%
4点	0	0%
5点	0	0%
N/A	5	14.3%

2-19. 各アイテムごとに、シリーズ展開の全体像が一目瞭然になっている。



1点	5	14.3%
2点	20	57.1%
3点	5	14.3%
4点	1	2.9%
5点	0	0%
N/A	4	11.4%

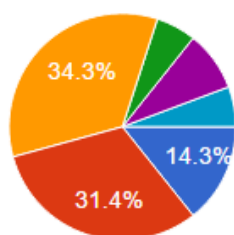
2-20. 文字ばかりでなく、図・表・写真・イラストを多用して理解しやすい配慮が行き届いている。



1点	1	2.9%
2点	12	34.3%
3点	14	40%
4点	3	8.6%
5点	2	5.7%
N/A	3	8.6%

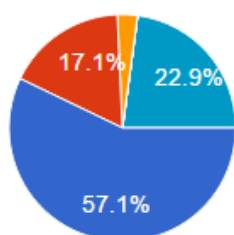
■ 図書館利用教育

2-21. ガイダンス・オリエンテーションを主なサービス対象者向けに実施している。



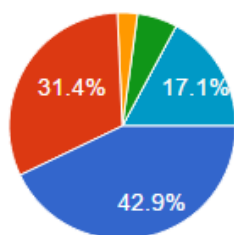
1点	5	14.3%
2点	11	31.4%
3点	12	34.3%
4点	2	5.7%
5点	3	8.6%
N/A	2	5.7%

2-22. ガイダンス・オリエンテーションを組織の管理職を対象に実施している。



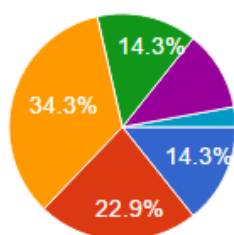
1点	20	57.1%
2点	6	17.1%
3点	1	2.9%
4点	0	0%
5点	0	0%
N/A	8	22.9%

2-23. ガイダンス・オリエンテーションを親組織のスタッフを対象に実施している。



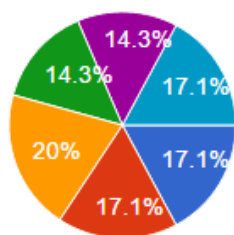
1点	15	42.9%
2点	11	31.4%
3点	1	2.9%
4点	2	5.7%
5点	0	0%
N/A	6	17.1%

2-24. 学習・教育活動を積極的に支援している。



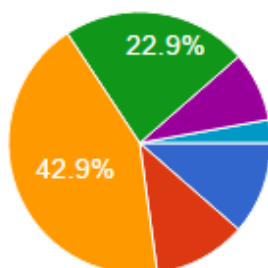
1点	5	14.3%
2点	8	22.9%
3点	12	34.3%
4点	5	14.3%
5点	4	11.4%
N/A	1	2.9%

2-25. 新着図書案内では、著者名、書名だけでなく出版社、出版年まで記載している。



1点	6	17.1%
2点	6	17.1%
3点	7	20%
4点	5	14.3%
5点	5	14.3%
N/A	6	17.1%

2-26. 図書館独自の課外イベントなどを積極的に実施している。

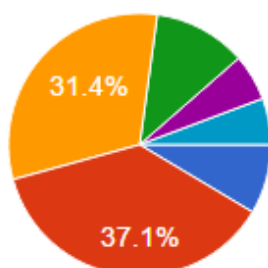


1点	4	11.4%
2点	4	11.4%
3点	15	42.9%
4点	8	22.9%
5点	3	8.6%
N/A	1	2.9%

【3】自分ブランディング編(各種図書館版)

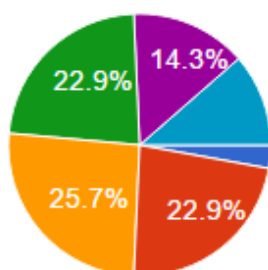
■ パソコン操作力

3-1. ショートカットキーを日常的に活用している。



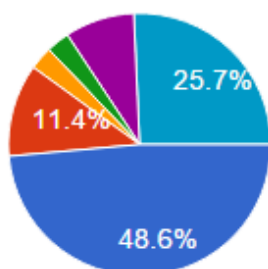
1点	3	8.6%
2点	13	37.1%
3点	11	31.4%
4点	4	11.4%
5点	2	5.7%
N/A	2	5.7%

3-2. チラシ類はWORDなどで手早く作成している。



1点	1	2.9%
2点	8	22.9%
3点	9	25.7%
4点	8	22.9%
5点	5	14.3%
N/A	4	11.4%

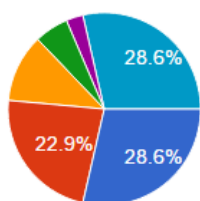
3-3. ウェブアンケートフォームを活用している。



1点	17	48.6%
2点	4	11.4%
3点	1	2.9%
4点	1	2.9%
5点	3	8.6%
N/A	9	25.7%

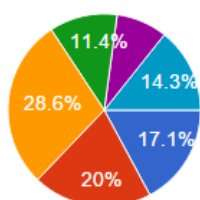
■ 企画演出力

3-4. オリエンテーション(ガイダンス)、講習会などのイベントの冒頭にプロローグとして、動画や画像、ジョークなどでツカミの演出を入れている。



1点	10	28.6%
2点	8	22.9%
3点	4	11.4%
4点	2	5.7%
5点	1	2.9%
N/A	10	28.6%

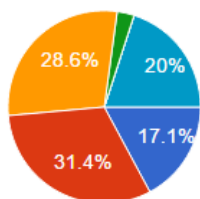
3-5. 利用者や管理者・関係者の目に触れる場面では、図書館員の専門性や、サービスのプロとしての能力・姿勢を強くアピールするよう 配作



1点	6	17.1%
2点	7	20%
3点	10	28.6%
4点	4	11.4%
5点	3	8.6%
N/A	5	14.3%

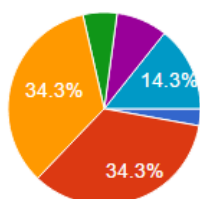
■ 情報探索法の指導力・説明力

3-6. 指導場面の条件・状況に応じて、対象者が興味を持って楽しく学べる、効果的な「良い例題」を用意している。



1点	6	17.1%
2点	11	31.4%
3点	10	28.6%
4点	1	2.9%
5点	0	0%
N/A	7	20%

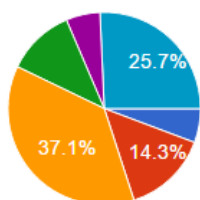
3-7. 「読みにくくてすみませんが…」 「あまり適当な例ではないかもしれませんが…」などの言い訳的な禁句を使わないよう意識して説明している。



1点	1	2.9%
2点	12	34.3%
3点	12	34.3%
4点	2	5.7%
5点	3	8.6%
N/A	5	14.3%

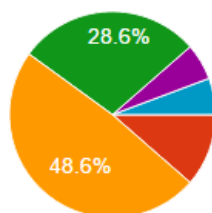
■ プレゼンテーション力

3-8. 文字や画像を投影する場合は、最後列からでも判読できる十分な大きさと情報量になるよう 意識して調整している。



1点	2	5.7%
2点	5	14.3%
3点	13	37.1%
4点	4	11.4%
5点	2	5.7%
N/A	9	25.7%

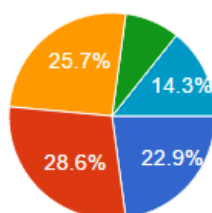
3-9. 前を向いて、利用者・参加者の様子を見ながら、堂々と、笑顔で、わかりやすく、臨機応変に、説明している



1点	0	0%
2点	4	11.4%
3点	17	48.6%
4点	10	28.6%
5点	2	5.7%
N/A	2	5.7%

■ 積極性

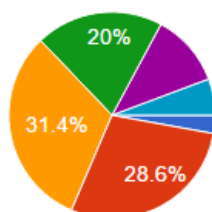
3-10. 館内外の会議や各種イベントでは図書館と図書館員の存在感を訴求するべく積極的に参加・発言・アピールしている。特に研修の質疑応答の時間には、最初に挙手している。



1点	8	22.9%
2点	10	28.6%
3点	9	25.7%
4点	3	8.6%
5点	0	0%
N/A	5	14.3%

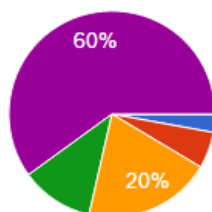
■ 自己アピール力

3-11. 職場では図書館と図書館員のイメージを意識して服装を選んでいる。



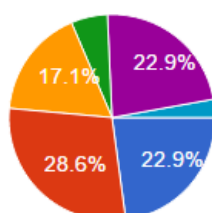
1点	1	2.9%
2点	10	28.6%
3点	11	31.4%
4点	7	20%
5点	4	11.4%
N/A	2	5.7%

3-12. 職場では名札を着用している。



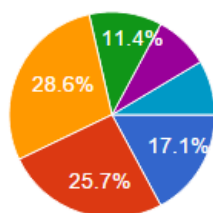
1点	1	2.9%
2点	2	5.7%
3点	7	20%
4点	4	11.4%
5点	21	60%
N/A	0	0%

3-13. 職場の名刺を作成し、出会った人に自分を覚えてもらいコンタクトするために積極的に配布・交換している。



1点	8	22.9%
2点	10	28.6%
3点	6	17.1%
4点	2	5.7%
5点	8	22.9%
N/A	1	2.9%

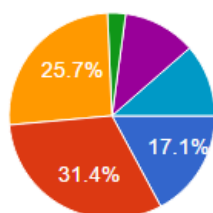
3-14. 図書館員としての自分の名前と人物がコミュニティ内で広く認知されるよう機会あるごとに積極的にアピールしている。



1点	6	17.1%
2点	9	25.7%
3点	10	28.6%
4点	4	11.4%
5点	3	8.6%
N/A	3	8.6%

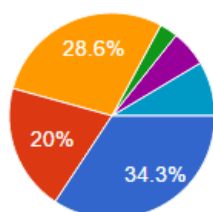
■ 人脈力

3-15. 営業担当の意識をもって自分自身のキャラクターを前面に押し出してコミュニティ内外の行事に積極的に参加している。



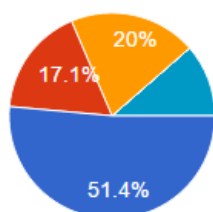
1点	6	17.1%
2点	11	31.4%
3点	9	25.7%
4点	1	2.9%
5点	4	11.4%
N/A	4	11.4%

3-16. 地域の図書館関係者の私的な勉強会・研究会・懇談会に参加している（主催も含む）。



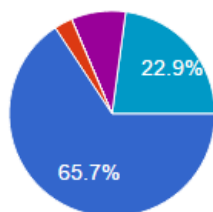
1点	12	34.3%
2点	7	20%
3点	10	28.6%
4点	1	2.9%
5点	2	5.7%
N/A	3	8.6%

3-17. 地域の市民・実業界関係者の勉強会・研究会・懇談会に参加している。



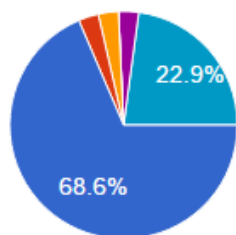
1点	18	51.4%
2点	6	17.1%
3点	7	20%
4点	0	0%
5点	0	0%
N/A	4	11.4%

3-18. 地域の図書館界の友人知人とメールリストを作って活用している。



1点	23	65.7%
2点	1	2.9%
3点	0	0%
4点	0	0%
5点	3	8.6%
N/A	8	22.9%

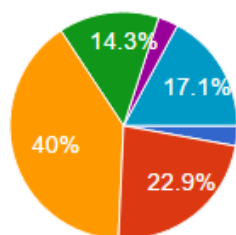
3-19. 地域を超えた図書館界のメーリングリストに参加して情報収集し積極的に発信している。



1点	24	68.6%
2点	1	2.9%
3点	1	2.9%
4点	0	0%
5点	1	2.9%
N/A	8	22.9%

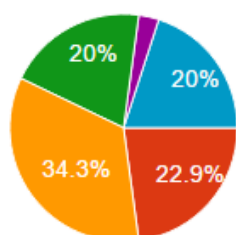
【4】改善の課題

4-1. ブランディングを实践しようとする(した)とき、同僚・部下の賛同・協力・支援を期待できる。



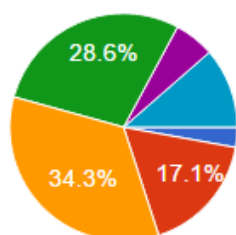
1点	1	2.9%
2点	8	22.9%
3点	14	40%
4点	5	14.3%
5点	1	2.9%
N/A	6	17.1%

4-2. ブランディングを实践しようとする(した)とき、管理職の賛同・協力・支援を期待できる。



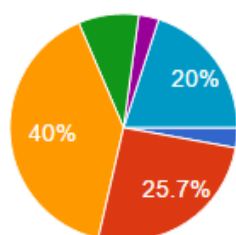
1点	0	0%
2点	8	22.9%
3点	12	34.3%
4点	7	20%
5点	1	2.9%
N/A	7	20%

4-3. ブランディングを实践しようとする(した)とき、館長・図書館(協議会等)委員の賛同・協力・支援を期待できる。



1点	1	2.9%
2点	6	17.1%
3点	12	34.3%
4点	10	28.6%
5点	2	5.7%
N/A	4	11.4%

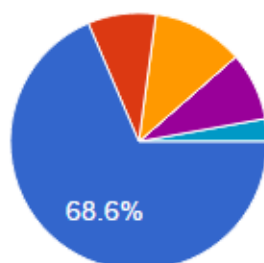
4-4. ブランディングを实践しようとする(した)とき、親組織の長の賛同・協力・支援を期待できる。



1点	1	2.9%
2点	9	25.7%
3点	14	40%
4点	3	8.6%
5点	1	2.9%
N/A	7	20%

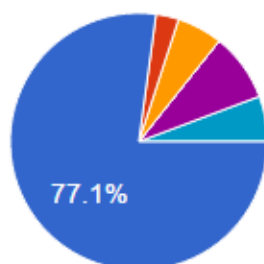
【5】自習状況

5-1.『図書館利用教育ガイドラインー図書館における情報リテラシー支援サービスのために(合冊版)』日本図書館協会図書館利用教育委員会編, 日本図書館協会, 2001.8, 81p



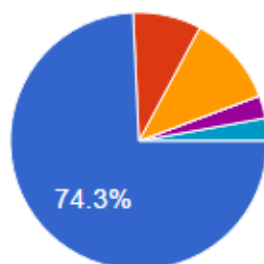
1点	24	68.6%
2点	3	8.6%
3点	4	11.4%
4点	0	0%
5点	3	8.6%
N/A	1	2.9%

5-2.『問いをつくるスパイラルー考えることから探究学習をはじめよう!』日本図書館協会図書館利用教育委員会図書館利用教育ハンドブック学校図書館(高等学校)版作業部会, 日本図書館協会, 2011.7.



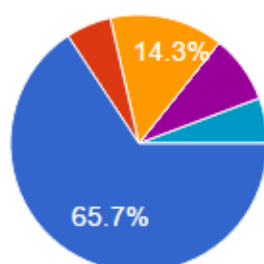
1点	27	77.1%
2点	1	2.9%
3点	2	5.7%
4点	0	0%
5点	3	8.6%
N/A	2	5.7%

5-3.『図書館利用教育ハンドブック(大学図書館版)』日本図書館協会図書館利用教育委員会編, 日本図書館協会, 2003.3



1点	26	74.3%
2点	3	8.6%
3点	4	11.4%
4点	0	0%
5点	1	2.9%
N/A	1	2.9%

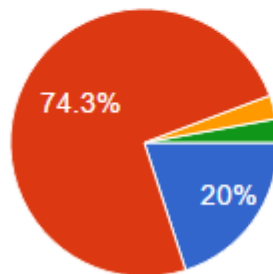
5-4.『図書館広報実践ハンドブックー広報戦略の全面展開をめざしてー』私立大学図書館協会東地区部会研究部企画広報研究分科会, 日本図書館協会発売, 2002.9 303p, 2381円



1点	23	65.7%
2点	2	5.7%
3点	5	14.3%
4点	0	0%
5点	3	8.6%
N/A	2	5.7%

【6】事前課題について ★全問回答必須 ★記述欄に「特になし」はやめてくださいね。(^.^;

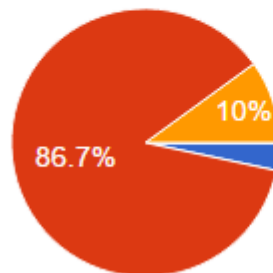
6-0. 上記の論文をすでに読んだことがありますか？



ある	7	20%
ない	26	74.3%
わからない	1	2.9%
その他	1	2.9%

【7】講師の著書について

7-1. 上記の最新著書の購入をご希望ですか？



1. 予約する	1	3.3%
2. 予約しない	26	86.7%
3. 購入済み持参サイン希望	3	10%
その他	0	0%

記述

4-6.ブランディング推進のネックは何だと思いますか？

●セルフブランディングを実践できるだけの仕事への信念や、専門職としての意志を持たない司書の存在。／職場内の情報共有・互いの意思疎通が不十分であること。図書館自体のブランディングを行おうとしても、目指すべき図書館像が職員によってバラバラである。

●公立図書館として、他の図書館より特化した独自性を持った運営方針、自主事業の確立。

●ブランディングの必要性を周囲に認めてもらうこと。

●親組織に賛同を得られても、具体的な協力が期待できないこと

●人材不足。

●広報媒体の性格やそれぞれの特質による限界(壁)がある。

推進に係る費用の捻出

●当市は10年前の合併により2館から12館の所帯となった。旧市にはそれぞれ特長があり、それを活かしながら全館共通の戦略を考え取り組むとなると経験年数の長い司書を各館あるいは基軸館に配置していただきたいが、現状約8割が雇用期間に制限のある非正規雇用でまかなっており正規職も異動があるため進まないと思う。

●コンセプトが意外と明確になっていないことが多い。発想力、コミュニケーション能力、プレゼン能力など個々の問題が多いと感じている。

●人材不足

●推進しようとする人のやる気。

●現在、自分に求められていないところ。

●学生、教員、他部署の職員との連携

●予算が回せない。市内利用者に浸透させるほどの話題性があるとは思えない。

●人員の少なさ

●周囲の共通認識

●目先の業務やイベントの準備などに追われて、特に期限のない事業は後回しにしてしまうこと。

●予算がない/賛同者が少ない

6-1.上記の論文についての感想、疑問、より詳しく聞きたい点など。

●「今まで『理解されるための努力』を怠ってきたのだから、これからの図書館は多少傲慢な位に声を張り上げた方がいいのではないか？」という思いに囚われていました。図書館を知ってもらうために最適な戦略を広い視野を伴って吟味し、日頃の図書館活動やサービスを通じた実践で利用者や外部機関との関係を築く努力を継続することがPR活動の要であることを再確認し、館のPRに関連した仕事の際に感覚に頼ったひとりよがりになりがちな自分を反省する機会になりました。

●特になし

●発信したからよしとする従来の方法だけでは、現代においては不十分であることがわかりました。情報セキュリティ管理上双方向性というのが難しい部分もありますが、住民に必要な情報が伝わり、かつ有効に情報を活用してもらうことができることが一番の目的であることを忘れずにいたいです。

●当日までに読みます

●図書館に足を向かせる、最も効果のある広報(経費最少)をご教示されたい。

●広報について、日頃あまり意識していないが、図書館サービスの上では重要なことなので、今回の分科会で学んでいきたい。

●本論文が2010、9月期のもので5年経過してはいるものの、昨今のめまぐるしい社会情勢や制度の改変・変化と、利用者ニーズの変貌に対応し、図書館(特に広報)が向上していくための要点が強調されていたと思う。

図書館の種別を問わず、社会的(責任)役割の発揮や市民生活の向上といった側面や図書館自体の停滞打破のため、さらに紹介された文献等を今後読んでいきたい。

●できるだけコストがかからないブランディング方法を知りたい。

●戦略的、アピールという言葉が館内で聞かない使わない。副題にある説明責任と自己アピールの時代、の責任という点は意識があるが自己アピールという点は意識が薄い。

●紹介例については、地域性やその図書館の独自性に基づいている感じがします。一定のレベルにある図書館なら効果もあると思いますが、多くの図書館はそのレベルにないため、以前からの同様な方法を取らざるしかないように感じます。新たな発想が生まれにくい職場環境になってしまっているのかもしれない。

●PRの具体例を知りたい。

●申し訳ありませんが、読んでないので、当日までには読むようにします。

●図書館司書の方々は広報が苦手？確かに、誠実な勤務態度の方が多く、自らをPRするような方はまれ。PRまでしなければ必要とされない図書館の存在意義も考えてしまう。自然と地域に必要な資源となる手法をご教授願いたい。

●図書館員の宣伝下手、確かにそうだなづけるものがあつた。ただ、自分の館も人手不足が否めず、気持ちがあってもなかなか現状を変えるのが難しいと感じている。少しずつ、努力している。

●様々な事例が紹介されているが、結果を出すには、ある程度組織内でけん引できる力のある人が必要なのでしょうか？

●図書館事業をより広く周知する方法とは

●最近のニュースで、出版、作家から本が売れないのは、図書館が貸し出すからという発言が有りましたが、どのように考えられますか。

- 図書館の利用促進のためには図書館員の積極的な取り組みが必要である。ターゲットをしっかりと捉えた上で、誰と連携するのか、どうしたいのか明確にし、こちらから歩み寄ったり、声を掛けたりしていくことが大事であると思う。
- 論文に出てくる案は、大都市のような図書館でしか実行できないかなと思うところがありました。特に、指定管理館は自治体との連携のもと運営されているので難しいです。
- なし
- 図書館の広報というと「図書館だより」「市広報でのおしらせ」等、何十年前からやり方が変わっていない。図書館の利用人数が頭打ちになってきている今、図書館のブランド力を上げ、図書館を利用することがステータスと皆が感じるような広報戦略を練る必要があると感じた。
- 利用者増に繋がるPRの仕方を教えていただきたいです。
- サイン計画について
- 広報について深く意識したことがなかったため、勉強になりました
- 私自身 PR の解釈が誤っていたと感じた。PR は“一方的な宣伝や世論操作ではなく、コミュニティ構成員に理解と共感を広め、参加と協力を促すために双方向性を重視しなければならない”ことを初めて知った。
- 今まで、広報については深く考えたことがありませんでしたが、これからの図書館の存在意義を示していくために、本気で考えていかなければならない課題だと思いました。地域のお年寄りなど、インターネットを使用しない人への広報・PRはどのようにすればよいか、成功例があれば教えて頂きたいです。
- 館外のサインについて。浜松市内には 22 館 1 分室の図書館がありますが、図書館の位置を現すサイン表示がわかりにくい、場所がわかりにくいという指摘を受けることが多々あります。現実問題、新しいサインを追加することは難しいと思いますが、そのような現状の中図書館の存在をアピールするためにはどのような方法が考えられるのでしょうか。
- 図書館の便利さを図書館以外の親部署に伝えることは非常に大切だと思うが、8年在籍して、親部署が視察に来るなどその機会はまだない。親部署が「見に行きたい」と思えるような取り組みをしないと、注目されないのか。／グッズ販売を推進しているが、カップもTシャツもみな持っている。古い考え方のように思う。
- 確かに必要になっていると思う/苦手に思っている/昔に比べ少しづつ資格化していると思うが、まだまだ足りないのだと思う

6-2.現在の仕事について、自慢できる点、困っていること、ぶつかっている壁、今後の取り組み計画など。

- 自慢できる点:職場内での情報共有推進の一環として、今まで「なんとなく」のルールで行われてきた業務のマニュアル作りを実施しています。職場の人たちからわかりやすいと高評価を得ています。／図書館に親しんでもらえるような簡易グッズ(レシートホルダー)をデザイン・作成しました。配布したお客様からも好評です。／困っている点:「外部との双方向の関係など築かず、図書館は今までと同じ受け身の姿勢と、時折の一方的な情報発信だけを行っていれば良い」という空気が職場に存在している。／図書館から発信された情報が明らかに狭い範囲、特定の層にしか届いていない。
- 公立図書館の現状とこれからの情勢(指定管理者制度・複合施設)
- 特になし
- 学校との協力が少し軌道に乗り始めているが、子供たちの図書館来館にまではつながっていない。親世代への働き掛けをどのように行か、また親世代に情報を届けるためにはどのようにすればよいかということ。旧来ながら紙で学校での配布を協力してもらったことが一番伝わりやすかったが、そのままでよいのか。
- 正規職員の司書が自分 1 名の中、勉強しなければならないこと・取り組むべきことが山積しており、どんなふうに様々な新しい取り組みを行っていったらよいか。
- 来館者の減少傾向
- 今年度ライブラリーコンサートの担当になったが、今のところ集客ができていないため、現在はSNSによる広報が重要になっていることを認識した。
- 図書館の現場では、勤務体制や人事上の問題や予算の制約等の理由により、人材育成(教育)や研修のための時間を十分に確保することが困難である。
サービス向上のため実働勤務体制やシフトに無理な状況が生じ、これらに割く時間・人的余裕がないのが現状である。
レファレンス・相談業務についても、経験や熟練度が要求されるにも拘わらず、高度な資質や対応能力を全職員に等質にもって欲しいところだが、なかなか難しい。
- YA 世代の取り込みを行いたい。それに必要な書籍の資料費が無いことが壁。
- 児童サービスは充実していると思います。児童書おすすめリストは 3 種類あり、おはなし会、ブックスタート、ブックステップ、映画会や児童イベントの多い点はいいところと思う。ぶつかっている点は非正規職の仕事上のレベルが揃わない。
- 非常勤ですが、今回の児童は長く担当させてもらっていて、やりがいがあります。研修などは、できるだけ参加するようにはしていますが、日々の業務に追われスキルアップはできていないように思います。
- スタッフのコミュニケーション能力や図書館業務への意欲を向上させたい。
- ホームページ・ブログ・ツイッターなどを利用してPRしたいが、情報系に強い職員がいないので推進が難しい。
- 地域館で、職員の人数も少なく、一人ひとりの状況を把握でき、困っていることを一人で抱え込まないよう、日常的に話し合いをしています。(お互いに声をかけやすい雰囲気をつくるようにしています)
- 自館は立地的にもわかりにくいところにあり、利用者数も非常に少ない。地域の資源としてもっと多くの方に利用していただきたい。地域に根付いた活動を展開していきたい。
- 蔵書点検。
- 現在行っている図書館事業が、単に人集めで終わってる現状から、今後は参加者が図書館に関心を持ってよき利用者とな

ってもらえるような事業になればと思っている。(まだ個人的に考えているだけなので、職場内で共感してもらえるよう伝えたい。)

●展示コーナーを充実させるには

●現在の業務については、通算3年目のわりには、与えられた業務をする以外にやらせてもらえず、消化不良気味です。管理者が異動などで、早く他の方に代わって貰いたい。

比較的に真面目で順応力が有るところが、強いていえば図書館に向いていると思います、自分で言うのもなんですが。定年迄8年有るが、出来れば図書館に置かせて貰えるといいのですが。

●学生との対話を重要と考え、積極的に声を掛けたり、意見を求めたりしている。しかし、内向的な学生が多いのも確かで、協働するにはとても苦勞する。もっと積極的に図書館活動にも参加できるよう、色々な支援をしていきたいと考えている。学生に色々な出会いや経験の場を提供したいとの思いの元、図書館内ギャラリーで展示会を開いたり、ワークショップを開催したりしている。この様な取り組みにより多くの学生を集めるための広報策を模索している。

●市や区、警察等などとの連携。講座やイベントの実施。魅力的な企画展示。

●なし

●職員数の少ない中で、日々のルーチンをこなしながら、戦略的広報をすることは難しい。

●現在、特集コーナー(展示)に力を入れています。

●ぶつかっている壁…もっと図書館を使いやすくしようと仕事が増え、残業をするなど指摘される。どれだけがんばっても数年後自分たちはここにいないのだと感じてしまう。

●現在の職務 1 年目のため、いろいろ吸収しようと努力している

●現在、大きなイベントの担当をしています。私にとって初めての大きな仕事であるため、緊張はありますが、周りの人と協力して進められるよう努めています。

●私達の図書館は、施設は古いですが、小さな町の小さな図書館として、温かな雰囲気であることが自慢です。困っていることは、すでに本棚のキャパシティを超えた蔵書があるため、本棚がどこも一杯で資料を探しにくいことです。除籍を進めていますが、正規職員の司書が一人しかいないため、除籍の判断が迅速にできず、なかなか改善に至りません。

●サブチーフとして業務の責任者をしておりますが、自分の経験がまだ浅いこと、周りの方々の方が年上の方ばかりなため、特に新人指導には毎度頭を抱えています。

●図書館が役に立つ施設だと示せるよう、必ず外部部署と連携するイベントを企画・運営している。

●学校図書館司書と合同で掲示物づくり(教科書に載っている作家紹介等・学校巡回展)や館内外の特別展・特設コーナーなど最近はおこなっている/地元の72候たより(年間24枚)を読書会で作ってみたが季節ごとに来館者のみに配布している…町外の方から送ってほしいと時々電話がある

6-3.今回の研修に期待することなどなんでもご自由に。

●この分科会をきっかけに、「図書館の持つポテンシャルと魅力を多くの人に知ってもらえるよう互いに協力していこう」という流れが県内の図書館関係者の間に生まれることを願っています。当日お話を伺うことを、とても楽しみにしております。

●特になし

●学校図書館向けの設問みたいで、少し答えにくかったです。設問によって自分たちに足りない部分に気がついたこともあり、必要だが今まで触れられていないことに踏み込んだ研修があると嬉しいです。

●6-2を踏まえ、自分にできることは何か、のヒントをつかみたいです。

●来館者の増加のヒント

●アンケートの得点を入れるのに、少しとまどうことがあった。

●上記のことを含め、停滞する事態の打破、解決への糸口を見出すために役立つことを期待しています。

●地域とのつながりを作るため有効な方法の事例があったら教えていただきたい。

●図書館PRということに意識が薄かったのでここで勉強させていただきます。

●今回の研修にあたって、今まで目を向けることができなかった事に意識をむけ、少しでもより良い図書館作りの提案ができればと思っています。

●参加者が新たな取り組みにすぐに挑戦したくなるような研修になればと思います。

●広報の研修の必要性を感じています。

●「図書館の魅力を上手に伝える」というテーマに魅かれ、分科会に参加して、自館で具体的に実践できることがあれば、いいなと思っています。

●小さな図書館でもできることを見つけない。

●他館の取り組みや参考にできる情報をいろいろと知りたい。少ない時間、人手でもわかりやすい表示、宣伝の仕方について特に知りたい。

●研修を受けると、その時は希望に胸が膨らみますが、日々の業務に戻ると、時間が経つにつれ熱意が冷めてしまいます。高い理想も好きですが、ちょっとしたアイデアでできることも盛り込んでいただけると、ハードルが低くすぐ実践でき、その後のレベルアップにつながるかと思うので、よろしくお願いします。

●上記の質問に回答してくれること

●数年前にも、図書館大会の大学図書館分科会で受講させて頂き、大変楽しくて、今回は大学図書館分科会ではなく、先生のお名前での第1分科会にしました。その時、ご自宅でペットとして飼われているクサガメさんの話が有りました、実は我が家にもクサガメを当時は庭で飼っていましたが、今年の夏に死んでしまいました。15年位はいたと思いますが、先生のクサガメさんは、元気で今も、先生が帰宅されると、お出迎えしているかしらと思っています。

今回にご講義を楽しみにしています。自分の業務の中で、生かせるようにしたいと思います。

●他の図書館の様々な取り組み内容を知る機会を得られたらいいと思う。大学図書館でも大規模大学と小規模大学では出来る事の規模も違うのが正直なところであり、他大学図書館との情報交換がもっと出来る様になったら良いと思う。

●アンケート長すぎです。

●なし

●少ない労力で、効果があがる広報とは？

●公共図書館でも参考になるお話を期待します。

●今回紹介された資料の存在すら知らなかった自分が恥ずかしいです。研修で勉強させていただけること楽しみにしております。

●図書館を理解し、親しみをもち、味方になってくれる人を増やす方法を教えていただきたい

●図書館職員1年目になります。わからないことだらけですが、いろいろと吸収していきたいと思います。宜しくお願いします。

●回答が遅くなり申し訳ありませんでした。お話を伺うのを楽しみにしています。

●回答期限が過ぎ、申し訳ございません。初めての参加になりますのでとても楽しみにしております。

●高齢者だけでなく、10代20代も呼び込めるような、年齢に偏りのない施設にしたい。期限が切れての提出で、申し訳ありませんでした。

●アンケートは答えるのが大変です/元気を貰えたらと思います

以上■□■(仁上／2015.11. 8)